

# 2019 鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 鈴鹿サンデーロードレース RACE REPORT

## ■開催概要

- シリーズ名称 : MFJ公認・承認 2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第4戦 鈴鹿サンデーロードレース
- 主催 : 株式会社 モビリティランド 鈴鹿サーキット
- 会場 : 鈴鹿サーキット国際レーシングコース・東コース(2輪/2.243km)
- 参加台数 : 総参加台数/205台
 

インターJP250	.....	3台
ナショナルJP250	.....	23台
ナショナルJSB1000	.....	27台
CBR250R Dream Cupエキスパートクラス	.....	24台
インターST600	.....	7台
ナショナルST600	.....	20台
CBR250RR Dream Cup	.....	23台
インターJSB1000	.....	24台
ST600R(Revival)	.....	30台
インターJ-GP3	.....	7台
ナショナルJ-GP3	.....	17台(内、NSF250R 7台)
- 開催日 : 2019年9月22日(日)
- 天候/路面 : 曇りのち雨/ドライ→ウェット

## ★次回レース予定

2019鈴鹿・近畿選手権シリーズ第5戦 鈴鹿サンデーロードレース

2019 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ最終戦：併催

■開催日/2019年11月2日(土)

■会場/鈴鹿サーキット国際レーシングコース・フルコース(5.821km)

■開催クラス/ CBR250R Dream Cupエキスパートクラス CBR250RR Dream Cup

■主催/ 株式会社モビリティランド 鈴鹿サーキット

★レースリザルトは、インターネットでご覧いただけます。

リザルトページ [https://www.suzukacircuit.jp/result\\_s/](https://www.suzukacircuit.jp/result_s/)

★レース写真は、バトルファクトリー様のHPでご購入いただけます。

バトルファクトリーHP <http://www.battle.co.jp/>



# 台風が接近する中、開催された鈴鹿サンデー第4戦 女性ライダーとティーンエイジャーの活躍が 目立つ1日に

暑い日が長く続いた夏が終わり、涼しい日が多くなってきた9月22日(日)に鈴鹿サンデーロードレースの第4戦が開催された。今回の舞台は第3戦に続いて国際レーシングコース・東コース。台風17号が接近する中、まず公式予選からスタートする。

最近の鈴鹿サンデーの特徴と言えば女性ライダーが多く参戦していることだ。まず行われたインター／ナショナルJP250の予選では開幕3連勝を飾っている片山千彩都が58秒514のトップタイムをマーク。また、CBR250R Dream Cupエキスパートクラスでは滝かおるが1分02秒155をマークし、これが予選トップタイムに。その滝から予選3番手までが100分の1以内に入る熾烈な争いとなった。

また、ティーンエイジャーの活躍も目立った。CBR250RR Dream Cupの予選では鈴木悠大(15歳)が59秒577をマーク。コースレコードを更新してポールポジションを獲得した。

昼のインターバルを挟み、2つめの決勝レースがスタートする頃に雨が降ってくる。その直前に行われたインター／ナショナルJP250の決勝では片山がポールtoウィン。開幕4連勝を飾り、最終戦を待たずしてシリーズチャンピオンを決めた。

11月2日(土)に開催される次回第5戦は、全日本選手権最終戦「第51回 MFJグランプリ スーパーバイクレースin SUZUKA」と併催される。絶好のツーリングシーズン、しかも3連休の土日、さらに3(日・祝)のレース後には国際レーシングコースにバイクとテントを並べて宿泊する「ル・マン式キャンプ」も開催され、いつも以上に盛り上がることは必至。その第5戦を終えると鈴鹿サンデーも最終戦NGKスパークプラグ杯を迎えることとなる。シーズンもいよいよ終盤。シリーズチャンピオンの行方を伺いながら観戦していただきたい。



今回もっとも多い参戦台数を集めたのは鈴鹿ST600R (Revival)。路面コンディションが気になるため、早い段階でダミーグリッドに並ぶ



### ■インター／ナショナルJP250

ホールショットを奪ったのは4番グリッドスタートの桐石世奈。その桐石、ポールポジションスタートの片山千彩都、3番グリッドスタートの佐藤大輔のオーダーでオープニングラップを帰ってくる。10番グリッドスタートの南博之が4位でオープニングラップを終えると、南は次のラップには3位に浮上。3周目のS字で片山が桐石をパスしてトップに。2番グリッドスタートの船田俊希も桐石をパスすると、船田は片山をもパス。6周目に桐石がトップに返り咲く。しかし、すぐに片山がトップに。その後もトップの座が入れ替わったが、片山がトップチェッカーを受けると同時にナショナルJP250のウィナーに。船田がインタークラスを制した。



インターJP250表彰式 (優勝:船田俊希)



ナショナルJP250表彰式 (優勝:片山千彩都、2位:桐石世奈、3位:佐藤大輔)

### ■ナショナルJSB1000

ウェット宣言が出され、8周に減算されてレースがスタート。5番グリッドスタートの大須賀俊晴がホールショットを奪う。その大須賀、ポールポジションスタートの中尾泰三、6番グリッドスタートの沖永博一のオーダーでオープニングラップを終了。2周目に中尾と大須賀をパスした沖永がトップに立つとすぐに単独状態に。大須賀も次第に単独2位となる。5周目に池主永が大須賀に接近していくと、続く6周目には池主と持永彰仁の2台が大須賀とテールtoノーズの状態に。大須賀、池主、持永はスリーワイド状態でファイナルラップに突入していく。その3台はトップの沖永にも接近。沖永、持永、池主のオーダーでチェッカーを受けた。



ナショナルJSB1000表彰式 (優勝:沖永博一、2位:持永彰仁、3位:池主永)



### ■CBR250R Dream Cupエキスパートクラス

ポールポジションスタートの滝がおおの横から2番グリッドスタートの上江洲葵要、3番グリッドスタートの藤村太磯がスルスルトと前に出ていく。藤村がホールショットを奪うが、オープニングラップをトップで帰ってきたのは4番グリッドスタートの辻野訓史。藤村、上江洲がそれに続く。7台がトップグループを形成。その中で辻野、藤村、上江洲が激しくトップの座を入れ替える。その3台に大倉拓夢を加えた4台が集団を抜け出すと、周回ごとに順位を入れ替えるバトルを展開。上江洲、辻野、藤村、大倉のオーダーでファイナルラップへと突入すると、上江洲をパスした辻野がトップの座を守り切り、トップチェッカーを受けた。



CBR250R Dream Cupエキスパートクラス表彰式 (優勝:辻野訓史、2位:上江洲葵要)

### ■CBR250RR Dream Cup

ポールポジションスタートの鈴木悠大が良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。鈴木はオープニングラップ終了時点で後続にコンマ707のアドバンテージを築くことに成功する。5番グリッドスタートの三浦雄一、3番グリッドスタートの田中風如がそれに続く。2周目に田中が三浦をパス。田中は鈴木のリールをも捕らえる。その2台がトップグループを形成。若干離れて三浦と梶山采千夏が3位の座を争う。6周目になると三浦と梶山がトップグループに接近。田中がトップで6周目を終了する。続く7周目には梶山がトップに。梶山がトップのままファイナルラップに突入するが、トップチェッカーを受けたのは田中だった。



CBR250RR Dream Cup表彰式 (優勝:田中風如、2位:鈴木悠大、3位:梶山采千夏)

### ■インターJSB1000

ホールショットを奪ったのは6番グリッドスタートの岩谷圭太。その岩谷を3番グリッドスタートの松永修がパスする。松永、岩谷、2番グリッドスタートの福山京太のオーダーでオープニングラップを終了すると、2周目には西村一之が3位に。西村は岩谷をもパスして2位に浮上する。次第に松永が単独トップに。西村、岩谷、佐藤龍彦がテールtoノーズの状態でも2位の座を争う。6周目の1コーナーで佐藤が岩谷に並びかけるがパスするには至らない。その岩谷も西村のリールを狙う。宮腰武が佐藤をパス。宮腰と佐藤の先行を許した岩谷は5位に脱落する。結局、2位以降に6秒420ものアドバンテージを築いた松永がこのクラス初優勝を決めた。



インターJSB1000表彰式 (優勝:松永修、2位:宮腰武、3位:西村一之)



### ■インター／ナショナルST600

ホールショットを奪ったのはポールポジションスタートの澤村俊紀。澤村、門馬巧実、村瀬豊とグリッドのオーダー通りにオープニングラップを帰ってくる。2周目に村瀬が門馬をパス。村瀬は3周目の1コーナーで澤村に並びかけるが、パスするには至らない。その後は澤村、村瀬、門馬、中島陽向がトップ集団を形成する。村瀬がトップで5周目を終了。村瀬は次第に後続との差を広げる。澤村の背後に門馬と中島が接近。9周目に中島が門馬をパスすると、綿貫舞空も門馬をパス。綿貫は中島をもパスする。結局、村瀬がトップチェッカーを受けると同時にインター-ST600のウィナーに。総合2位の綿貫がナショナルST600を制する結果となった。



インター-ST600表彰式 (優勝:村瀬豊、2位:中島陽向、3位:澤村俊紀)



ナショナルST600表彰式 (優勝:綿貫舞空、2位:増田雄基、3位:羽野慎一)

### ■ST600R (Revival)

4番グリッドスタートの西田幹が良いクラッチミートを披露して飛び出す。オープニングラップをトップで帰ってきたのは7番グリッドスタートの岸本修。その岸本、3戦連続でポールポジションを獲得した前迫祥平、西田のオーダーとなる。3周目に片岡亮太、山下尚紀、井上正光、小松孝章が西田をパス。その間に前迫が岸本をパスしてトップに立つ。前迫は徐々に単独トップに。岸本と片岡がテールtoノーズの状態での2位争いを展開する。片岡が岸本をパスすると、7周目には前迫のテールを捉えることにも成功する。8周目の1コーナー進入で片岡が前迫をパス。片岡と前迫はその後もバトルを続けるが、片岡がトップチェッカーを受けた。



ST600R (Revival) 表彰式 (優勝:片岡亮太、2位:前迫祥平、3位:岸本修)



## ■インター／ナショナルJ-GP3／ HRC NSF250R Challenge

2番グリッドスタートの羽根巧がスルスルッと前に出て行くが、トップでオープニングラップを帰ってきたのは8番グリッドスタートの中嶋昂士。それに羽根、伊藤元治と続く。2周目には伊藤がトップに。伊藤と羽根が集団を抜け出してトップの座を争う。その若干後方を走るのは塚本武蔵と金子寛。金子にパスされた塚本にジャンプスタートによるライドスルーペナルティが出される。5周目に羽根が伊藤をパスしてトップに。伊藤がトップに返り咲く。羽根が9周目の最終コーナーで転倒。有利な展開となった伊藤がトップチェッカーを受けると同時にナショナルJ-GP3のウィナーに。総合2位の金子がインターJ-GP3を制した。



インターJ-GP3表彰式 (優勝:金子寛、2位:岩田吉正、3位:羽根巧)



ナショナルJ-GP3表彰式 (優勝:伊藤元治、2位:大庭飛輝、3位:酒井隆嗣)



HRC NSF250R Challenge表彰式 (優勝:大窪証文、2位:中嶋昂士、3位:松村悠)

**Voice  
of  
Pick up  
Riders**  
この日、キラリと光った  
ライダーに一问一答  
-SUNDAY EDITION-

この日、キラリと光ったライダーに一问一答  
「Voice of Pick up Rider -SUNDAY EDITION-」

ナショナルJP250クラス優勝&チャンピオン獲得！

**片山 千彩都** 選手(19歳)  
(GOSHI Racing / ホンダCBR250RR)



**Q.開幕から2戦連続でポールtoウィン。第3戦では2番グリッドからスタートし、トップチェッカーを受けました。今回はどんな予選でしたか？**

A.本当はもう少し良かったです。コースレコードを狙っていたのですが、前走車に追いついてしまい、タイム更新はなりませんでした。それでもトップタイムをマークできて良かったです。

**Q.オープニングラップと2周目は2位を走行。チャンスを狙っていましたね。**

A.桐石世奈選手が速く、スタートですごく離されてしまいました。これはS字しかない!と考え、そこで行きました。その後もバトルが続きましたが勝てました。

**Q.これで開幕4連勝。しかも全てインタークラスのライダーを抑えての総合優勝ですね。チャンピオンも獲得しました。**

A.え、チャンピオンなんですか!?! 全然知りませんでした。次回もポールtoウィンを目指し、全戦優勝を狙っていきます。